

## 令和5年度第1回学校給食運営審議会 会議録

日時：令和5年（2023）7月10日（月） 15：05～16：30

場所：出雲市役所 6階 委員会室

### ◆教育長あいさつ

- ・先週、週末からの豪雨により被災された方もあったかと思う。心からお見舞い申しあげる。一刻も早い復旧を願っている。
- ・市内における学校給食事業は、令和2年8月に斐川学校給食センターを移転新築し、3つのセンターで調理部門は市直営、配送は委託で行っている。
- ・これまで給食費の徴収、食材の調達等は学校給食会が行っていたが令和4年8月から公会計化をしたため、市で行うこととなり学校給食会は令和5年3月末日をもって解散した。
- ・本審議会は給食費改定の検討や給食に関する意見聴取を行ってきた学校給食会に変わるものとして設置した。

### ◆出雲市学校給食運営審議会設置条例及び会議規則について説明（資料2ページ）。

- ・第1条、この審議会は、学校給食の適正かつ円滑な運営を図るために設置
- ・第2条、学校運営に関する事項及びその他教育委員会が必要と認める事項について、調査及び審議すること。
- ・第3条、委員会の委員は15名以内、任期は2年。  
ただし、今年度で区切るため7年3月31日までの任期となる。
- ・第4条、会長、副会長は委員の互選による。
- ・第5条、審議会は委員の定数の過半数の出席がなければ、会議は成立しない。
- ・第6条、委員は、職務上知りえた秘密は他に漏らしてはならない。また、退いた後も同様。
- ・会議規則、基本的にこの会は公開であり、第6条では会議録を作成することとしている。
- ・出席状況、11名出席のため本会は成立（過半数の7名以上の出席で成立）

### ◆会長及び副会長選任

- ・選任は委員の互選による。会長にB委員、副会長にC委員と発言あり。
- ・共に委員の拍手により承認。

### ◆会長あいさつ

平成17年に栄養教諭が制度化され、食育基本法も制定された。

学校給食については、学校給食法で、教育の一環であると示されている。一方、この食べるという行為は人々の身近な営みであるがゆえに軽視されがちである。しかし、成長期にある児童・生徒の栄養、食事管理ではとても大事なものである。

本会を、保護者や学校、現場等の意見を聞き出雲市の学校給食をよりよい形になるよう進めていく会としたい。

#### ◆副会長あいさつ

学校の現場で実際に給食の指導も含めて実施してきた。これまでの勤務や他市町村での経験を通じ情報提供するなど審議していきたい。

#### ◆議題 (1) 学校給食の概要について

資料 (6 ページ以降) に沿って説明。

#### ◆質疑応答

(質問：D 委員)

- ・食品の選定について化学調味料についても、何かこだわりがあるのか。
- ・油はどのようなものを使っているか。米油がいいと聞いている。
- ・マーガリンの使用はあるか。油やマーガリンに含まれるトランス脂肪酸は発癌性があり、よくないと聞く。

(回答：E 委員)

- ・化学調味料や加工品など、成分表を取り寄せて確認し、アミノ酸などが入っていない物を使用。
- ・揚げ物の油は大豆油、炒め物やドレッシングはサラダ油を使用。
- ・マーガリンは使用していないが、給食パンは県内統一の調合であるためマーガリンが使用されている。

(補足：会長)

健康志向が高くなりマーガリン等の植物性のものを開発している食品会社では、できる限りトランス脂肪酸の含有量を少なくする企業努力をされているので、楽しむというところで、いろいろな食品を使われても良いと思う。

(質問：会長)

- ・地産地消の取組みの主な食材は米と野菜か。島根牛や地元の魚はいかがか。
- ・アレルギー対応給食は3センター共通か。
- ・危機管理として、給食センターにおける避難所等災害対策はいかがか。

(回答：E 委員)

- ・地産地消について、米、牛乳は市内産を使用。野菜はマッチング会議で情報交換し市内産を使うようにしているが、生産者が減るなど量の確保が難しくなっている。
- ・牛肉については、昨年、一昨年は島根和牛を寄贈いただき、子どもたちもおいしくいただいた。普段は食材が値上がりしているため、使用しづらい状況である。
- ・魚については、大社産のサワラやアジを使用していたが、漁獲量が減っており使用しづらい状況である。
- ・乳と卵のアレルギー対応やアレルゲンチェック献立は3センターで共通している。

(回答：林学校給食課長)

- ・災害対応については、給食センターは避難所指定ではなく、要請があれば炊き出しを行う。給食センターに備蓄食品等はなく各コミセンなどにある。

(質問：A委員)

- ・運動誘発性の食物アレルギーの市内の状況と対応、過去の事例はいかがか。

(回答：E委員)

- ・運動誘発性アレルギーに関しては、センターでは把握していない。突然出てくるものでもあるため、危機管理として学校でも気を付けられ、対応を把握されたい。

(回答：杉谷教育長)

- ・昼休み中や体育の後に少し呼吸が苦しい状況になったり、結果として運動誘発のアレルギーではないかという疑いはあった。
- ・予防は難しいため、子どもが症状を起こした時に、学校内でどう対応するか危機管理体制をきちっと確認しておくことが必要かと思う。

(質問：副会長)

- ・他の給食センターで凍結により水が出ず、給食が提供できないという経験があるが、出雲市の対応はいかがか。

(回答：阿川斐川学校給食センター所長)

- ・各センターは貯水槽でやっているため、事故等あり濁り水が入るとかあれば貯水槽手前で止めてしまい、水を確保し調理を行うことができる。
- ・電気が止まった場合は対応できないため、各学校に連絡し対応をお願いする。

## ◆議題 (2) 学校給食の現状について

資料 (21 ページ以降) に沿って説明。

## ◆質疑応答

(質問：会長)

- ・物価が上がっており、今の費用では給食を行うのが難しいという状況か。

(回答：林学校給食課長)

- ・物資の値上がりが激しく非常に苦勞している。まずは現状を説明しながら、今後給食費についても、検討をお願いしたい。

(意見：F委員)

- ・先般七夕に七夕ゼリーがでなかった。また卵料理も少なくなったと感じており、苦勞されているなど感じている。

・現状ギリギリのところではないかと思うので、給食費の値上げをしてもいいかなと思う。

(質問：G委員)

・保護者としては、給食費は安いありがたいが、今苦勞しながらやっている中で子どもたちの反応はいかがか。

(回答：阿川斐川学校給食センター所長)

・昨年12月のクリスマスにケーキを出せなかった。子どもたちがすごく楽しみにしていたため、残念がっていたと聞いている。

(回答：E委員)

・牛乳代が上がっていき、副食費が削られるとデザートはプラスのものなのでしわ寄せがいく。子どもたちは楽しみにしているので申し訳ないと思っている。  
・牛肉、豚肉も値上がりしているため、多少安価な鶏肉に変更しているが、栄養摂取基準があるため基準を確保するよう努力している。

(意見：G委員)

・親としては、経費が抑えられるのはありがたいが、子どもの気持ちを考えるとコロナの黙食から今度は友達と話をしながら食べられるような状況になって、おいしいおいしいねって言いながらの給食ができるといいと思う。  
・副食費の値上がりの状況をみると給食費の値上がりも致し方ないと感じている。

(意見：H委員)

・他市町でも今回のような審議会に参加していたが、同様に物価上昇が大きな問題となっていた。  
・安心安全な給食であることが大事であり、経費を抑えることと安心安全とのバランスについて慎重に審議する必要がある。

(意見：I委員)

・幼稚園では、七夕の時には園児からは七夕ゼリーがないという話はなかったが、職員から星型コロケだね、考えてあるねという意見があった。  
・栄養価を削ることができない中、慎重に審議しながら献立を立てられギリギリのところ物資を調達されていることがよく伝わった。  
・サワラや牛肉、柿などの仕入れが難しい状況や、デザートを削るという話を聞くと給食費について考える時期に来ていると感じた。

(質問：D委員)

・松江市と比べると値上げの検討もない状況だが、検討に入る段階なのか。

(回答：林学校給食課長)

・次回のこの会で改定の案を提示したいと考えている。

(意見：D委員)

・子どもたちは給食を楽しみにしているので、価格の維持よりも喜びも維持してもらいたい。価格は致し方ないところがある。皆さんも理解されるのではないかと思う。

(質問：A委員)

・収納状況について、未納対策はどのようにされているか。正直に納めた方が負担としないことが必要と感じている。

(林学校給食課長)

・収納率については上げていかないといけないと思っている。  
・児童手当の代理収納制度を活用するなどし、100%に近づくように頑張っていくと思っている。

(意見：A委員)

・コロナ禍も経てかなり厳しい状況も見えつつあるが、収納対策は必要と考えるので対策をお願いする。

#### ◆その他事項

(林学校給食課長)

・給食費の改定について、早急に検討をお願いしたい。  
・次回の会を7月27日16時からお願いしたい。

(意見：会長)

・次回7月27日16時から出席をお願いする。  
・本日の会で感じたことを述べさせていただきたい。  
・学校給食は衛生管理を徹底したうえで安全安心に提供されるのは当たり前、小学校、中学校それぞれに栄養摂取基準が設けられ、その基準を満たした献立を立てることが当たり前、おいしくて当たり前など、この「当たり前」は給食に関わる方々の努力によるものである。  
・保護者に対して、「当たり前」の事項を持続させるために、どんな食材を使っているか、どんな工夫や苦勞をしているのかなど情報発信ができるとういと思う。  
・危機管理についても、学校給食センターの立場でできることがあるかもしれない。他市、他県に先駆けて出雲市の学校給食が対策等について検討していくといいと感じた。

#### ◆令和5年度第1回学校給食運営審議会を終了